２．農業新技術の概要

1)水稲優良品種候補「空育114号」について

中央農業試験場稲作部　育種科

1.はじめに

現在、北海道における産米に関し、本州産米の玄米品質と良食味に一歩でも近づけ ようと、「優良米の早期開発」として、品種育成試験を継続中である。

本系統は、「キタヒカリX巴まさり」のF1を母、「空育99号」を父として[1)]交配 し鹿児島県で世代促進を図った雑種後代約２万個体の中から、特性検定[2)]、生産力検 定[3)]並びに地域適応性検定試験[4)]を実施し、選抜固定したものである。

2.特性の概要

本系統は、良質・良食味であり障害型耐冷性[5)]に強いが、耐倒伏性は劣る特徴を有 す。現在、道央地帯における水稲基幹品種は、「キタヒカリ」、「ともゆたか」、「 イシカリ」並びに「みちこがね」で、これら４品種で粳作付面積の約９０%を占めて いる。このうち「キタヒカリ」は１等米の出荷率が高く、かつ、良食味であるが、収 量性がやや劣り、いもち病耐病性も不十分であるため、過大な作付はでき難い。一方、 「ともゆたか」は、栽培特性に優れ多収性ではあるが、玄米等級並びに品質・食味が 時代の要求にあわない。本系統の出穂期は「キタヒカリ」より早く、「ともゆたか」 とほぼ同じであるが、成熟期は「キタヒカリ」並である。玄米品質は「キタヒカリ」 並、食味はこれを上回り、耐冷性は中生種のいずれの品種よりも強く「強」と判定さ れる。また、収量性は「ともゆたか」よりやや劣るが、「キタヒカリ」を上回る。

3.普及態度

主に道央地帯(空知、石狩、後志、胆振、日高、渡島・桧山北部及び上川・留萌中 南部)において、「ともゆたか」「キタヒカリ」の一部に替えて栽培し、「キタヒカ リ」とともに、本道産米の声価向上を図ろうとするものである。

しかし、本系統は、登熟性がやや劣り、また、「ともゆたか」「キタヒカリ」に比 べて耐倒伏性が劣るため、多肥栽培は厳に慎むことが肝要である。

空育114号の育成地における特性概要

品種名＼形質	早晩生	草型	出穂期(月日)	成熟期(月日)	登熟日数	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/株)	芒性	障害型耐冷性	耐倒伏性
空育114号	中の早	偏穂教	8.14	10.5	55	68	19.3	22.1	中・短	強	中
ともゆたか	中の早	穂　数	8.13	10.4	56	65	18.4	24.2	稀・短	や強	や強
キタヒカリ	中の中	偏穂教	8.17	10.5	53	67	16.9	22.0	無	中～や強	や強
イシカリ	中の早	偏穂教	8.14	10.5	55	67	18.8	20.1	無	や強	強
みちこがね	中の中	偏穂教	8.17	10.7	54	67	17.0	20.5	無	や強～強	強

品種名＼形質	葉いもち病耐病性	穂いもち病耐病性	収量(kg/a)	玄米千粒重(g)	玄米品質	検査等級	食味	アミノグラム最高粘度(B.U.)	アミロース含量比
空育114号	中	中	49.3	21.3	上中下	2中	上中	427	98
ともゆたか	中	中～や強	47.8	22.9	上下上	3中	中上	356	104
キタヒカリ	や弱	や弱	42.8	21.8	上中下	2下	上下	392	100
イシカリ	や強	や強	47.1	22.7	上下上	3中	中上	323	104
みちこがね	中	中	44.1	21.5	上中下	2中	上下	369	99

---

1)昨年度育成した「ともひかり」と同じ交配組合せより育成。

2)特性検定試験(品質、食味特性、耐病性、耐冷性などの検定を行い、選抜の参考にする)は、54年から5年間実施。

3)生産力検定試験(収量、出穂期、千粒重、検査等級などを既存品種と比較し、選抜の参考にする)は、54年から5年間実施。

4)地域適応試験{奨励品種決定調査)は、試験機関で56～58年に5か所で実施、委託農家では57～58年に、空知13、石狩4、後志4、胆振6、日高4、上川9、留萌2、渡島・桧山5、計47か所で実施。

5)障害型耐冷性は、特性検定試験として実施し、冷水掛流し及び人口気象箱を使用。

6)表の項目中、成熟期のみ56～57年の平均値で、それ以外は56～58年の平均値である。

目次へ戻る